

144

Cercospora 屬菌に因る北支那の 植物病害に就て (豫報)

逸見 武雄

(京都帝國大學農學部植物病理學研究室)

北支産の *Cercospora* 屬菌は三宅^{1,3)} により明治45年から大正3年までの間に12種、また賀峻峰、王明德兩氏⁴⁾ により民國23年に10種報告せられてゐる。中田⁵⁾ は昭和14年8月から10月にかけて興亞院の委嘱によつて北支蒙疆農作物病害調査をなし、その結果を昨年11月に發表したが、本屬菌に因る病害 13 種を記載した。上記3氏の採集品中には重複せるものがあるので、筆者の調査範圍内に於ける既知北支産本屬菌は合計28種である。

筆者は昭和15年8月下旬北京に數日滞在したが、昨16年には8月4日北京着、9月4日昌黎出發までの一箇月間河北、山東兩省の一部を視察し、昌黎、通州、北京、石門、濟南、張店、濰縣、坊子、城陽、青島、李村等の附近で野外採集の機會を得たが、それ等の植物病害標本中には本邦、滿洲並びに北支の文献に未記録のものが相當に多數あるので目下その調査に従事申である。しかして研究中筆者の興味を惹いた事實は不完全菌類中の線菌目 *Hyphomycetes* 黑色線菌科 *Dematiaceae* に隸屬す

* 京都帝國大學農學部植物病理學研究室業績、第178號。

1) Miyake, I.: Studies in Chinese Fungi. *Bot. Mag., Tokyo.* Vol. 26, p. 51-66, 1912.

2) Miyake, I.: Studien über chinesische Pilze. *Bot. Mag., Tokyo,* Vol. 27, p. 37-54, 1913.

3) Miyake, I.: Ueber chinesische Pilze. *Bot. Mag., Tokyo.,* Vol. 28, p. 37-55, 1914.

4) 賀峻峰、王明德：華北菌類目錄豫報, *Ann. Res. Coun. Nat Univ. Peiping, Agr. Sci. Ser.,* Vol. 1, p. 1-22, 1934.

5) 中田覺五郎：北支蒙疆農園藝作物病害調査報告。華北産研。調査報告。第2號，昭和16年(民國30年)。

[醫學と生物學・第1卷・第10號・頁494-498・昭和17年5月20日]

る *Cercospora* 屬菌 (*Corcosporina* 屬を包括) に因るものが特に多いことであつたが、筆者の採集せる本屬菌は 35 種にして、内 30 種が栽培植物の病原菌であつた。22 種は北支未記録の菌と思はれるものにして、8 種は東亞未記録のものと思はれる。北支の植物病原菌として、本屬菌が何故特に多いかと云ふことは將來検討を要する重要問題ではあるまいか。勿論筆者の採集時期が偶々本屬菌の發育に適してゐたのかも知れんが、他方北支の環境が總括的に本屬菌の活躍に適してゐるのかも知れないと云ふ疑問も生じ得るであらう。いづれにせよ、本屬菌の生態學的研究は北支農作物の病害防除上肝要なことと見做さねばなるまい。筆者の採集せるものと既知種とを併せ表示すれば、つぎの如くである。

C. althaeina は蜀葵斑點病菌として、日本及び北支の文獻に既に知られてゐたものであるが、筆者は北京郊外及び軍糧城に於て採集せる青麻の病葉も、また本菌の侵害に因るものであることを確めた。*C. Achyranthis*, *C. Araliæ-cordatae*, *C. Dioscoreae*, *C. Fukushiana*, *C. Humuli*, *C. longissima*, *C. Oenotherae*, *C. profusa*, *C. Rosae* 等はいづれも日本内地に於て既にその發生を知られてゐるものである。*C. citrullina* は北米合衆國及び臺灣⁶⁾に於て、西瓜の病原菌として發表せられたものであるが、筆者は軍糧城に於て、その發生を西瓜に認めたばかりでなく、昌黎に於ては冬瓜に發見した。*C. Cydnieae* は日本内地でも發生を知られてゐるが、從來その種名が決定せられてゐなかつたもので、筆者はこれを青島に於て採集した。*C. destructiva* はマサキ褐斑病菌として昭和 15 年福井⁷⁾により初めて本邦に於ける發生の報せられたものである。*C. Hibisci-cannabini* はケナフ葉煤病菌として大正 11 年臺灣に於て澤田⁸⁾の命名せるものであるが、通州でその發生を認めた。*C. Lythracearum* は北米合衆國テキサスで發生を報せられてゐるが、筆者⁹⁾は最近百日紅褐斑病菌と命名し、北支青島に於ける發生を報告した。*C. Medicaginis* も

6) 澤田兼吉：臺灣産菌類調査報告。第四編，臺灣總督府中央研究所農業部報告。第35號，p. 107, 昭和3年。

7) 福井武治：觀賞植物病害調査報告(其四)。著者出版。p. 6-7, 昭和15年。

8) 澤田兼吉：臺灣産菌類調査報告。第二編。臺灣總督府中央研究所農業部報告。第2號，p. 153-154, 大正11年。

9) 逸見武雄：滿洲國及び北支に於ける公園樹と街路樹の2, 3病害に就きて。教育農藝。第11卷(原稿發送濟)昭和17年。

番號	病原菌學名	三宅氏 採集	賀氏等 採集	中田氏 採集	逸見採集
1	<i>C. acerina</i> Hart.	—	多寶楓	—	—
2	<i>C. Achyranthis</i> Syd.	—	—	—	エノコヅチ
3	<i>C. althaeina</i> Sacc.	—	蜀葵	—	蜀葵, 青麻
4	<i>C. angulata</i> Wint.	<i>Phila-</i> <i>delphus</i>	—	—	—
5	<i>C. Apii</i> Fres.	—	—	セルリー	セルリー
6	<i>C. Araliae-cordatae</i> (Hori).	—	—	—	土當歸
7	<i>C. Bellyneckii</i> (West.) Sacc.	<i>Cynan-</i> <i>chum</i>	—	—	—
8	<i>C. beticola</i> Sacc.	—	キヨウナ	キヨウナ	キヨウナ
9	<i>C. canescens</i> Ell et Mart.	小豆	十	—	—
10	<i>C. cerasella</i> Sacc.	—	—	櫻桃	—
11	<i>C. circumscissā</i> Sacc.	—	—	杏, 桃	櫻
12	<i>C. citrullina</i> Cke.	—	—	—	西瓜, 冬瓜
13	<i>C. cruenta</i> Sacc.	—	—	小豆, 綠豆	小豆, 綠豆
14	<i>C. Cydnieae</i> Ell et Ev.	—	—	—	ボケ
15	<i>C. destructiva</i> Rav.	—	—	—	マサキ
16	<i>C. Dioscoreae</i> Ell et Mart.	—	—	—	薯蕷
17	<i>C. Fabae</i> Fautr.	<i>Vicia</i>	—	—	—
18	<i>C. Fukushiana</i> (Mats.)Yamamoto.	—	—	—	鳳仙花
19	<i>C. fuliginosa</i> E. et K.	—	—	—	君遷子
20	<i>C. gossypina</i> Cooke.	棉	—	棉	棉
21	<i>C. Helianthi</i> E. et E. (?)	—	—	—	姫向日葵
22	<i>C. hibiscivora</i> Hara.	—	—	ケナフ	ケナフ
23	<i>C. Hibisci-cannabini</i> Sawada.	—	—	—	ケナフ
24	<i>C. Humuli</i> Hori.	—	—	—	カナムグラ
25	<i>C. Ipomeae</i> Wint.	丸葉朝顔	—	—	—
26	<i>C. Kaki</i> Ell et Ev.	—	—	柿, 君遷子	—
27	<i>C. longissima</i> Trav.	—	—	—	莖蒿
28	<i>C. Lythracearum</i> Heald et Wolf.	—	—	—	百日紅
29	<i>C. Medicaginis</i> Ell et Ev.	—	—	—	ルーサーン
30	<i>C. neovignae</i> Yamamoto.	—	—	豇豆	豇豆
31	<i>C. Qenotherae</i> Ell et Ev.	—	—	—	月見草
32	<i>C. olivasces</i> Sacc. (?)	—	—	—	菜豆
33	<i>C. Oryzae</i> Miyake.	稻	—	—	—
34	<i>C. pachypus</i> Ell et Kell.	—	—	—	向日葵
35	<i>C. personata</i> (B. et C.) Ell.	落花生	落花生	落花生	落花生
36	<i>C. polymorpha</i> Bubak.	ウスベニア フビ	—	—	—

37	<i>C. profusa</i> Syd.	—	—	—	エノキヅク
38	<i>C. ricinella</i> Sacc. et Berl.	蓖麻	—	—	—
39	<i>C. Rosae</i> (Fuckel) de Höhnel.	—	—	—	菘菘
40	<i>C. Rösleri</i> (Catt.) Sacc.	—	—	葡萄	葡萄
41	<i>C. Sesami</i> Zimm.	—	胡麻	胡麻	胡麻
42	<i>C. sojina</i> Hara (<i>C. Daizu</i> Miura).	—	大豆	—	—
43	<i>C. Sorghi</i> Ell. et Ev.	—	高粱	高粱	高粱
44	<i>C. spinacicola</i> (Sacc.)	—	—	—	菠薐草
45	<i>C. timorensis</i> Cke.	—	水生甘藷	—	—
46	<i>C. tineae</i> Sacc.	<i>Viburnum</i>	—	—	—
47	<i>C. tasensis</i> P. Henn.	イヌホトズキ	龍葵	—	イヌホトズキ
48	<i>C. Zinniae</i> Ell. et Mart.	—	—	—	百日草
49	<i>Cercospora</i> sp.	—	菊	—	—
50	<i>Cercospora</i> sp.	—	—	—	ネヂキ(?)
各著者採集菌類數		12	10	13	35

また北米原産の病原菌であるが、北京、李村、昌黎等でルーサーンの被害甚だしきを認めた。*C. neovignae* 及び *C. fuliginosa* は、中田⁶⁾によりそれぞれ *C. Vignae* Racib., *C. Kaki* Ell et Ev. とせられしものである。*C. pachypus* は向日葵の病原菌として北米合衆國に古くより知られしものであるが、筆者¹⁰⁾は斑點病菌と命名し、最近滿洲及び北支に於ける發生を報告した。筆者は通州に於て菠薐草に本屬菌を採集し、*Cercosporina spinacicola* Sacc. 菌と同定し得たが、*Cercosporina* 屬はこれを *Cercospora* 屬に包括せしむべきものであるから、*Cercospora spinacicola* (Sacc.) Hemmi と改名することにした。日本内地に於て菠薐草に *C. Spinaciae* Oud. の發生が報ぜられてゐるが、その胞子は小形であるから、北支産のものは明かに別種である。*C. Zinniae* は百日草を侵害する菌にして、古くから北米でその發生を報ぜられてゐるが、筆者は京都市に於て昭和8年10月18日にこれを採集し(未發表)、北支に於ては昌黎で採集した。臺灣に於て山本¹¹⁾は百日草に *C. atricineta* Heald et Wolf 菌の發生を報告したが、その胞子は北支及び京都産のものに比し

10) 逸見武雄：滿洲國及び北支に於ける向日葵の病害に就きて(一)、病蟲害雜誌、第29卷、第4號、p. 174-177、昭和17年。

11) Yamamoto, W: *Cercospora*-Arten aus Taiwan (Formosa). III. *Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa*, Vol. 26, p. 279, 1936.

頗る長形であるから明かに別種である。

終に本研究は文部省科學研究費で行ひつゝある東亞農作物主要病菌生態學的研究の一部であるとともに、華北産業科學研究所の委囑によつて行ひつゝある華北植物病害調査の一部をなすものであることを附記し、關係當局各位に謝意を表す。

(受附：昭和17年5月9日)